

平成二十六年年度を迎えて

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長

台東区立平成小学校校長

大石京子

平成二十六年四月二十一日に、国立オリンピック記念青少年総合センターに於いて、東京都公立学校情緒障害教育研究会定期総会が開催され、今年度の活動が始まりました。私は、この度、竹淵正人先生から、都情研の会長を引き継ぎました台東区立平成小学校大石京子と申します。竹淵前会長をはじめ、歴代の会長や諸先輩が築き上げてきた歴史ある本研究会です。会員の皆様と共に、本会の更なる発展と情緒障害教育の充実のために力を尽くして参りたいと思いません。微力ではありますが、精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

定期総会には、ご来賓として全国特別支援教育推進連盟大南英明様、日本自閉症スペクトラム学会野村東助様、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官丹野哲也様、全国情緒障害

研究会会長中村雅子様、全国特別支援学級設置学校長協会会長阿部謙策様、東京都自閉症協会副理事長吉田庸子様、東京都教育庁指導部統括指導主事川口真澄様をお迎えしました。そして、ご挨拶の中では、様々な法や制度改正の下、児童・生徒の現状を踏まえて、都情研がどんな役割を担い、どのようにならぬかを、ご示唆をいただきました。また、都情研の歩みを振り返ると共に、今後も力強く前進していくために大きな励ましをいただきます。心より感謝申し上げます。

さて、情緒障害等通級指導学級を利用する児童・生徒が年々増加し、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画によって特別支援教室構想が進められています。目黒区、北区、狛江市、羽村市の

掲載内容の紹介

P2 「巡回相談・在籍校訪問の際に役立つ！通常学級担任への支援」

立教大学現代心理学部 大石 幸二先生

モデル事業も本年度は三年目になります。それぞれの地区から成果と課題が報告されています。昨年度行われた特別支援教室モデル事業評価委員会の報告に目を通すと、およそ以下のような課題が読み取れます。

時代の要請に答え、児童・生徒の現状に適切に対応し、学校に通う全ての子供たちがそのニーズに応じてより効果のある指導を受けられるようにするために、今、特別支援教育のあり方やシステムが変わろうとしています。

○支援を必要としている児童・生徒が増える中、在籍学級での指導改善や支援教室での指導方法と学習内容についての工夫が必要である。

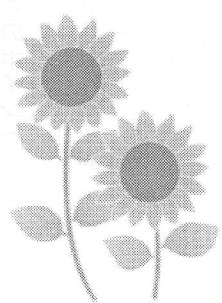
都情研には、築き上げてきた研究実績があります。毎年熱心に各部会毎に研究が進められています。その成果がこの大きな変革の時代に十分に生かされ、新しい特別支援教育の構築が実現することを願って止みません。東京都全域にわたって多くの会員が所属する本研究会で、会員同士が情報を交換し、成果や課題を共有しながら、よりよい体制作りを進めていきたいと思います。そして、互いに切磋琢磨しながら学び、専門性を磨いていきたいと思います。どうぞ、本年度もよろしく申し上げます。

○効果的な指導・支援を行うために保護者や関係機関、在籍校の担任等と連携を強化し、共通理解を深める必要がある。

○巡回教員の専門性向上のために研修システムの構築と在籍校担任の障害理解のための研修が不可欠である。

○特別支援教室は、落ち着いた環境を保てる教室配置等、一定基準を満たす必要がある。

○学校が特別支援教室をどのようにな活用して成果を上げていくのか。校内の支援体制を明確にしておく必要がある。



平成二十六年年度 都情研総会記念講演（抄録）

「巡回相談・在籍校訪問の際に役立つ！通常学級担任への支援」

立教大学現代心理学部 大石 幸二先生

今回の講演においては、通常学級における授業をよりよいものとしていく上での大切な視点について、分かりやすく具体的にお話をしていただきました。誌面に限りがあるため、お話のかなりの部分を割愛せざるを得ず、誠に残念です。それでも、とても示唆に富む内容ですので、最後までお読みいただき、今後の指導に生かしていただければと願っています。

（広報部）

一、観察のポイント

子供が教室で過ごしている様子をどのように観察して、見取っていくかということです。私は、小・中学校、高等学校に巡回相談で伺った時に、学校の先生方に「実感」が湧くような観察と視点の提示をしたいと考えています。

(1) 行動に基づく気付き

- ①姿勢・身体の構え
- ②腕や手の動きと手際よさ
- ③問題となる行動ときっかけ
- ④掲示物や作品等の読み取り

例えば、前屈が強くて目と机の距離が二十センチもない児童は、教室での四十五分間の授業を最後まで頑張ることができません。鉛筆の頭が自分の身体と反対側に倒れるような持ち方をして視写活動を

している児童は、本来特別支援教育の対象とならない子供たちでも「気になる子たち」かもしれません。小学校では、掲示物や図画工作などで仕上げた作品はその子の家族関係や友達関係を表すこともあるので、こういったところから読み取れるその子の「心の餓え」の部分について報告をすることもあります。

(2) 学習に基づく気付き

- ①机上・身辺の整理整頓
- ②板書の視写活動の様子
- ③指示理解・着手・従事
- ④困難な課題への対処

学習の場面で整理整頓がなかなか上手くないのか、一分間かけても、教文字しか書いていないとなれば、基礎基本の根幹にかかわ

るノートのとり方・残り方が変わってしまいます。

教室の後ろから見ると、前から見ている先生とは違った子供の姿が見えます。まず、足の裏が見えている子供が何人いるのかを探します。後ろから見て足の裏が見えるということは、つま先立ち、若しくは足を組んだ状態で座っているということですね。こういう子供たちは背もたれにべたつと背中を付けています。「よっこらしよ」といったん身体を起こし、次に道具と自分との関係を整えてから視写活動に入るので、課題への着手がワテンポ出遅れてしまいます。クラスに何人足の裏が見える子供がいるのかを見れば、このクラスの学級経営がどのくらい大変か想像がつかます。

次に分かるのは、利き手側の肩が上がって左右のバランスが悪くなっている子供たちです。この子供たちは、姿勢が悪くて作業能力の低い子供たちです。身体が斜めになっている子供の数が多いうことは、先生方が指示言語の無駄遣いをしなければいけない割合が高いということの意味します。



二、報告のポイント

- ①教室の中の出来事
- ②毎日繰り返される
- ③教師に実感が湧く
- ④教師自身が気付く
- ⑤次時から修正可能
- ⑥独りでも実行可能

私たちが教室の中での先生と子供、あるいは子供同士のかかわり合いを見せていただいた時に、教室の中でその時に起こっていた出来事を取り上げて伝えることができれば、先生方には実感が湧きやすいだろうと思います。毎日起こりそうな出来事に特に焦点を合わせることもありますが、結果だけでなく先生が考えていた「意図」を理解することも必要です。そして、先生自身が使われた言葉を「先程、先生がおっしゃっておられたように」となぞることで、ご自身で気付いていたことが大切で、自身自身の言葉で自分の実践を語れるようになって欲しいからです。さらに、次の時間、あるいは休み時間から直ちに取組むことができ、独りでも取り組むことができるような、その方のもつておられる財産というところに沿っていくことが大事だと思います。

最近では、いつも一人一人に対応しなければいけないという児童が増えてきています。先生方は、やっただけのことが子供たちから返ってきたり、保護者が先生の取り組みや細かな配慮をちゃんと感じたりとつたりしてくれば、疲れも吹き飛ばす部分がありますが、なかなかそういうふうな全体的な指導効果を実感できない状況に置かれていると思います。であるならば、今できていることの中の価値をいかに引き出すかという視点で、それを技術にして共有化し、知恵にして語りとしてまとめ、若い世代に伝えていくということが非常に急がれる、求められていると思います。先生たちが元気で、はりきって「よしやるぞ」と気合いに燃えて日々を迎えることができるために、教室の中にある現実から優れた技と知恵を抜き出すことが必要だと思っています。

先生方が意識して行うことができるということが大事なのです。だから、巡回相談では、意識化できたり、語れたりする素材をお土産として残していくことができる。と良いのではないかと考えています。

す。先生が言語とボディーランゲージと両方を使って子供たちに伝えるということとは、それだけでも価値があります。

明るさにとっても強い影響を受ける子供たちに対しては、カーテンを引くか、少し内側の方に入れた方が、黒板の状況だけでなく、手元の状態も見えやすくなります。そういう配慮をしている先生がいたら、この人は、子供たち一人一人の見え方の世界が違うということとをきつと知っているのだらうなと思います。「先生の座席の配慮は大変感心しましたよ」と伝えます。

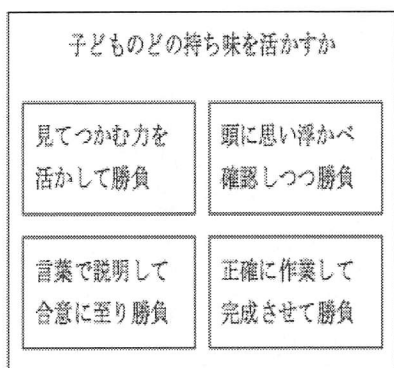
あるいは、行動上の落ち着きのなさを抱えている子に対して「廊下側ではなく一番集中しやすい位置を考えました」と先生が言ってくださると、光環境だけではなく、音環境が子供にどういった影響を及ぼしているか考えて配慮してくださっているのだなと思います。こういう細かな配慮をもっと地域や家庭が知ってくれたらどんなにか連携がしやすいかと思えます。

三、検討のポイント

(1) 子供の持ち味を活かす

その子の得意なことを活かす授業の仕方ができているかを検討していく必要もあるでしょう。見て理解するタイプの子供は、とにかく見せて全体像をつかませる必要があります。正確に作業をすること

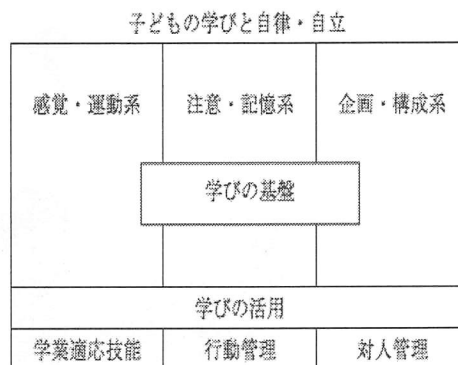
に長けていて、物が出来上がっていくことで実感が湧く子供には、手で操作できる物を準備します。また、試行錯誤できる時間を与える必要があるかもしれません。その子の得意なところはどこだろうと見ていくと、その得意なことを活かすためには、頭に思い浮かべやすいような言葉の使い方をしなければとか、手で動かすことができる物を必要に応じて準備しなければという教材研究につながっていくのではないかと考えています。



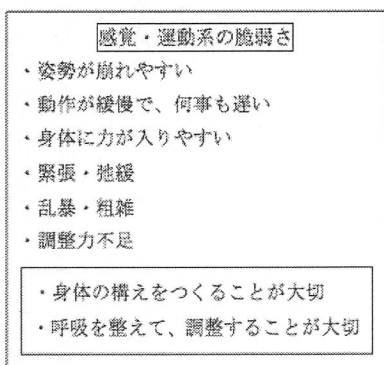
(2) 学びの基盤から考える

自立を目指して子供たちを助けていこうとする時に、学びの基盤をおろそかにすることはできません。

姿勢が崩れやすい、動作が鈍く見える、身体に余計な力が入りやすい、物の扱いが乱雑などという子



供たちは簡単に考えると物体と身体の関係がなかなかできていないということが示唆されるので、「構える」ということが最初に必要なのかもしれません。子供たちが呼吸を整えて、物を冷静に見つめるための数秒間の間をとるだけでもクラスは劇的に変化するかもしれません。



一方で、少しだけ聞いて溜めて理解するとか、言われたことを音から映像に頭の中で置き換えて、きつとあれのことだぞ、以前にもこういうシーンがあったな、と頭の中に思い浮かべることが難しく、キョロキョロしてしまったり、飽きてしまったり、展開できなかつたりする子が目立つクラスもあります。そういう場合には、見る時にどれくらい隅々まで隈無く見とれているか、子供たちの眼球運動は大丈夫か、先生は見やすい提示の仕方をしているか、というところが課題になります。

注意・記憶系の脆弱さ

- ・注意を一点に集中させることが難しい
- ・よそ見をする、キョロキョロする
- ・しばしば手が止まる、茫然とする
- ・あきっぽく持続性に欠ける
- ・流れのある作業を自力で展開できない

・見る力を高めることが大切
・イメージを頭に浮かべられることが大切

イメージ化しやすい例示が思考・問題解決の基礎になっています。低学年の先生は、擬音語・擬態語を効果的に使っています。または、身体部位を話の中に入れることによって意識化を図っています。中学年から高学年くらいになると子

供の生活の中に存在している例を挙げることによって、彼らが見たり触ったりしたことがある内容を取り上げ、言葉の音とイメージを結び付けるということをやっているのです。高学年から中学生になると、教師が伝えるのではなく、子供自身が例を挙げることで、皆の共有を高めるという取り組みにつながっています。構成力を要求する際には、素早く動かすよりも、そつと動かすことの方が大切になります。運動の調節ができる人は、細やかに指先を動かすこと、速度調節がとて

企画・構成系の脆弱さ

- ・整理整頓が苦手、周りが雑然とする
- ・指示どおりに行動することが難しい
- ・教具・道具を適切に使用できない
- ・見直しや振り返りができない
- ・即座に修正、修復することをしない

・そつと動かし、正誤を確認させることが大切
・手がかりを残して、いつでも見られる配慮

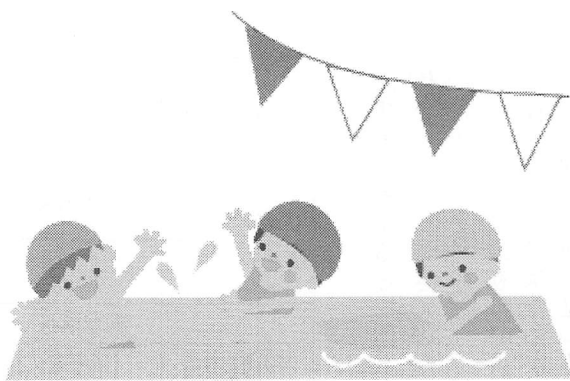
も上手です。大人が十分に歩けるようになった時に、前につんのめって転ばないで済むのは、運動にブレーキがかけられるからです。上手にブレーキがかけられ、ハンドルさばきが見事になる、これが発達

です。そう考えた時に、子供たちがそつと自分の身体をコントロールすることができるというのが、作業構成力を鍛える上で、とても大切なことなのです。

子供たちがどんな姿勢や姿で教室の中で活動しているかは担任の先生も見ている現実や事実なので、そういうところがなぜそのようであるのかということが協議できたらいと思います。子供たちの注意がなかなか一か所に収斂していかない時に、呼吸ということとテンプを作り上げるためのブレーキ、ハンドルが十分手に入っていないからかもしれないという仮説で子供の姿を見ると、「じゃあ、体育の深呼吸のところを少し改めない」と考えてくださる担任がいるかもしれせん。物事を順序正しく一歩一歩進めていくような作業能力というのは、子供たちが問題解決する力を助けてくれます。そのため、整頓力を高めたら、今度は手順をちゃんと踏むという癖をつけてあげること、中等教育の段階で子供たちが自分を高めるような技を先生方に与えていただければ嬉しいのです。

要は身体が資本かもしれないと最近はお考えしています。身体からわき上がる呼吸とか、身体をどのように自分の物として動かせるか、動かす時に意図性や計画性がどの

ように生まれて、それを言葉としてどう定着させることができるかではないかと思っっています。こういうことを個で見られる、情緒障害教育をやっているらっしゃる先生の語りというのが、通常学級の担任の先生たちにとってみれば、目から鱗の話が結構あるのではないかと思えます。



**第四十七回全国情緒障害教育
研究協議会 兵庫大会案内**

全情研事務局長 有澤直人

平成二十六年八月七日～八日の二日間、兵庫県西宮市の関西学院大学上ヶ原キャンパス・聖和キャンパスにおいて全国情緒障害教育研究協議会兵庫大会が開催されます。大会テーマは「一人一人の自立を支える連続した支援の充実をめざして」ラ イフステージに応じた指導・支援、連携のあり方を探る」というものです。

都情研の先生方は、小中学校の発達障害の児童生徒にかかわっている方がほとんどだと思います。義務教育段階の子供たちにかかわる教師は、目の前の今の課題解決や発達の支援に力を注いでいますが、一人の人生の長さを考えると、学校生活は、ほんの一時期の短い期間でしかありません。けれども、そこでの学習には将来の生活を見通した視点が必ず必要であり、子供の長い成長に目を向けて、今なすべきこと、身に付けさせるべきことを考えていくことが求められます。そうした視野を広げるためにも、全国大会に参加して、多くのことを学び取ってもらいたいと思います。詳しくは本会のホームページをご覧ください。

平成二十六年年度

**設置校部夏季集中研修会
練馬区立豊玉南小学校 坂井英子**

* 期日

八月四日(月)～五日(火)

* 会場

中央区立月島第一小学校

* テーマ

「これからの情緒障害教育のあり方」

* 内容

【八月四日(月)】

◇講演会

「発達障害がある児童生徒の具体的な学習支援」(仮題)

杉並区立済美教育センター

指導教授 月森久江先生

【八月五日(火)】

◇講演会

「キレやすい子の理解と対応、その保護者や援助者への支援」

東京学芸大学

教授 大河原美以先生

◇グループ討議

* 情緒障害学級担任向けの研修会です。参加申し込みが必要です。人数に限りがあります。担任数の増加により、今年度からスリッパの用意はありません。各自、履きものをご持参の上、ご参加下さい。詳しくは、各学級あてに案内を出しますので、ご覧ください。

平成26年度 新設学級、再開学級、休級学級等一覧

	区市町村	学校名	学級名	固定・通級		区市町村	学校名	学級名	固定・通級
小学校新設	1	中央区 5月～ 京橋築地小学校	通級指導学級 しおかぜ	通級	中学校新設・変更	1	墨田区 吾妻立花中学校	友愛学級	通級
	2	文京区 小日向台町小学校	しいの木学級	固定		2	世田谷区 船橋希望中学校	きぼう学級	通級
	3	江東区 第二亀戸小学校	ひまわり教室	通級		3	八王子市 加住中学校	加住未来塾	通級
	4	品川区 鮫浜小学校	あおぞら	通級		4	多摩市 青陵中学校	5組	固定
	5	渋谷区 幡代小学校	いちょう学級	通級		5	多摩市 多摩永山中学校	こぶし学級	通級
	6	豊島区 9月～目白小学校	あおぞら学級	通級		6	稲城市 第五中学校	通級指導学級	通級
	7	板橋区 蓮根第二小学校	コミュニケーション の教室 たんぼぼ	通級		7	東大和市 第五中学校	8組	固定
	8	北区 滝野川第三小学校	巡回拠点たきさん	巡回		8	小平市 第四中学校	一橋学級	通級
	9	北区 柳田小学校	巡回拠点やなぎだ	巡回		9	西東京市 青嵐中学校	IJ組	固定
	10	江戸川区 船堀第二小学校	やまぶき学級	通級		10	青梅市 吹上中学校	ときわ学級	固定
	11	武蔵野市 井之頭小学校	かわせみ学級	通級	再開	1	三宅島 三宅中学校	学級名なし	通級
	12	立川市 第八小学校	つばさ学級	通級					
	13	日野市 滝合小学校	つばめ学級	通級					
	14	八王子市 第九小学校	けやき	通級					
	15	八王子市 高嶺小学校	コミュニケーション の教室 なないろ	通級					
	16	八王子市 下柚木小学校	チャレンジ	通級					
	17	東大和市 第七小学校	七森	通級					
	18	小平市 第七小学校	はなみずき	通級					
	19	西東京市 柳沢小学校	みどりB	固定					
	20	西東京市 東小学校	あすなる学級	固定					
	21	日の出町 大久野小学校	コミュニケーション の学級 キラリ	通級					

※この一覧は、定期総会時に配布された資料を基に、都情研会員調査のデータを加えたものです。

平成二十六年 定期総会を終えて

目黒区立原町小学校 上田拓

四月二十一日(月)、国立オリピック記念青少年総合センターにおいて、平成二十六年度都情研定期総会が開かれました。今年度は台東区立平成小学校長大石京子先生が新会長に承認されたほか、新たに役員の先生方が承認されました。また、事業報告、決算報告、事業計画、予算案等が審議・承認されました。

今回の記念講演は、立教大学教授の大石幸二先生より、「巡回相談・在籍校訪問の際に役立つ！通常学級の担任への支援と担任との関係づくりや行動観察のポイント」という演題でご講演いただきました。児童生徒に一貫した眼差しを向けるといった「授業での勝負」や行動観察シート、学びのチェックリストの活用等について、大変分かりやすくお話しいただき、特別支援教育コーディネーターの仕事をしていく上で多くの事を学ぶことができました。

本年度は、第四十七回全国情緒障害教育研究協議会全国大会が、八月七・八日に兵庫県西宮市で開催されます。ぜひご参加ください。

平成 25 年度 決 算 報 告

(単位：円)

Table with 3 columns: 1 収入 3,427,906; 2 支出 1,629,537; 3 差引残高 1,798,369

(収入内訳)

Table with 5 columns: 款 項, 項目, 予算額, 決算額. Includes items like 会費, 繰越金, 助成費, 協力費, 雑収入.

(支出内訳)

Table with 5 columns: 款 項, 項目, 予算額, 決算額, 残 額, 摘 要. Includes items like 運営費, 事務費, 会議費, 事業費, 予備費.

平成 26 年度 予 算

(単位：円)

Table with 3 columns: 1 収入 3,554,414; 2 支出 3,554,414; 3 差引残高 0

(収入内訳)

Table with 4 columns: 款 項, 項目, 予算額, 摘 要. Includes items like 会費, 繰越金, 助成費, 雑収入.

(支出内訳)

Table with 4 columns: 款 項, 項目, 予算額, 摘 要. Includes items like 運営費, 事務費, 会議費, 事業費, 予備費.

平成 26 年 3 月 31 日

東京都立学校情緒障害教育研究会 会 長 竹 淵 正 人 印

副会長(会計) 斉 藤 秀 司 印

会 計 野 津 康 司 印

平成 26 年 3 月 31 日

監査の結果、正確であることを認めます。

東京都立学校情緒障害教育研究会 監 事 小 川 深 雪 印

編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたらお寄せください。

☎042-642-4201

八王子市立由井第一小学校

編集・発行 都情研広報部

印刷 (株)ワールドミーティング